



《学校教育目標》

「育成を目指す資質能力」

- やり通す「粘り強さ」
- 協力する「協働する力」
- 前進する「創造する力」

啓北中四本柱

- ・挨拶励行 ・環境美化
- ・私語撲滅 ・時間厳守



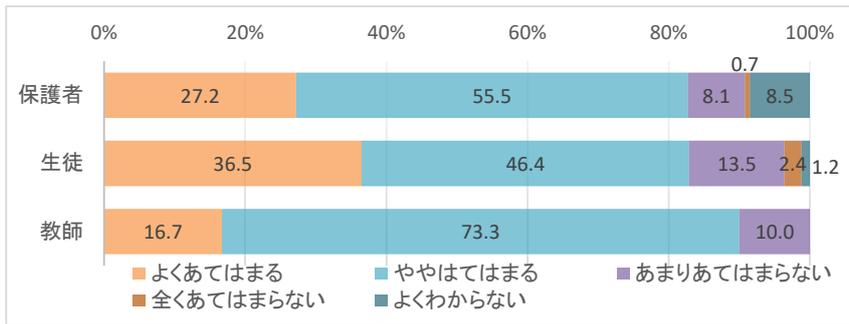
苫小牧市立啓北中学校 学校通信 令和8年1月28日発行

令和7年度 教育活動についてのアンケート結果について

厳寒の候、保護者の皆さまにおかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。
 さて、過日、御多用の折にもかかわらず、多くの皆さまに御協力をいただきました学校評価につきまして、集計結果がまとまりましたのでお知らせいたします。
 アンケート結果につきましては、全教職員で協議の上、本校の教育活動の成果と課題を共有し、今後の教育活動の更なる充実に向けた貴重な資料として活用させていただきます。
 今後とも、保護者の皆さまの御意見を大切にしながら、子どもたちが安心して学び、成長できる学校づくりに努めてまいります。
 引き続き、変わらぬ御支援と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

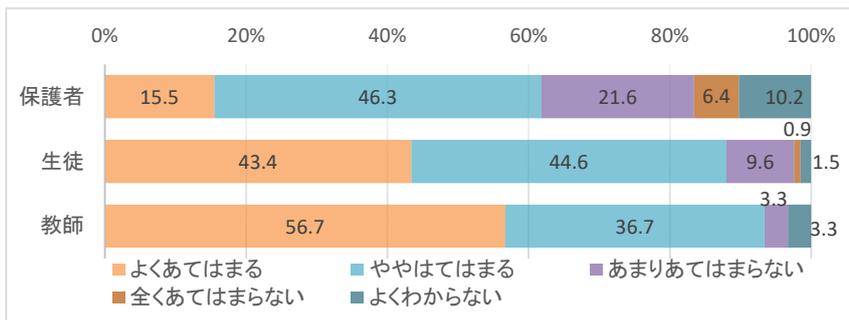
苫小牧市立啓北中学校長 遠藤佳伸

Q1 生徒が「安心安全」と思え、居場所となる学級や学校になっているか。



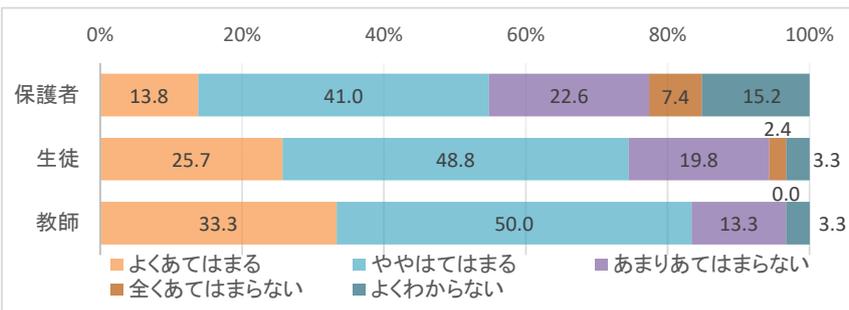
特に生徒の肯定感が高水準を維持しており、日常的な生徒理解や安心感を重視した学級経営の積み重ねが成果として表れていると考えられる。一方で「よくわからない」等の回答も一定数見られるため、個々の生徒が安心して過ごせる学級経営のさらなる工夫改善が必要である。

Q2 授業が課題からまとめ、振り返りと分かりやすく、生徒が意欲的に取り組んでいるか。



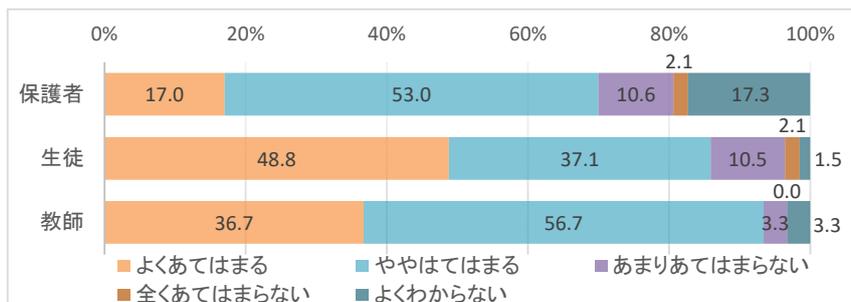
R7では、授業構成の分かりやすさに対する肯定的評価が全体として高まった。特に生徒の評価が上昇しており、授業のねらいや振り返りが学習理解につながっていることがうかがえる。校内での授業改善の共通理解が進んだ成果と考えられる。

Q3 授業で課題を自分で考え、まとめたり発表したりすることで自力で解決する力が身についている。



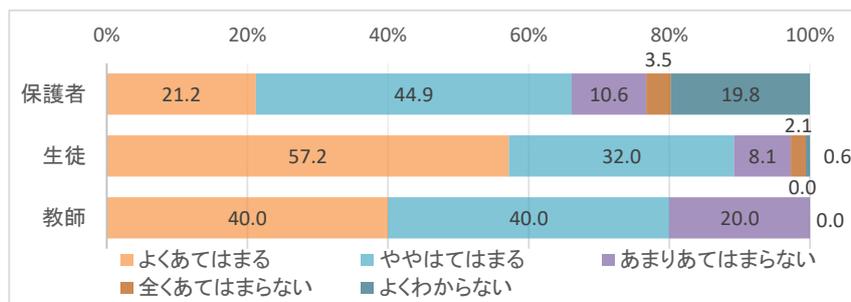
R6と比較して大きな変動はないものの、一定の肯定的評価を維持している。発表やまとめの場面は確保されている一方で、「自力で解決する力」という視点では、個人差が依然として存在している。今後は、思考過程を支援する手立ての充実が求められる。

Q4 授業でペアやグループ、全体で話し合う学習を行い、互いに学び合う力が身についている。



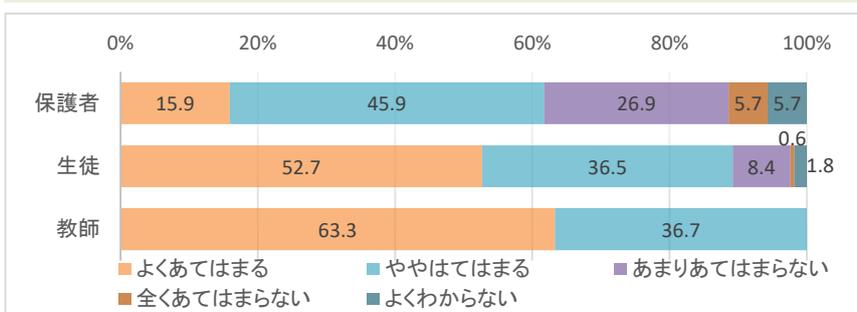
ペアやグループ活動を通じた学び合いについて、R7では肯定的な評価が高まっている。特に教職員の評価が高く、授業内での協働的な学習場面の設定が定着しつつあるといえる。生徒の実感と一致させるためにさらに子ども視点での授業改善の取組を推進することが必要である。

Q5 授業でタブレットを活用し、意欲的に学習に取り組んでいる。



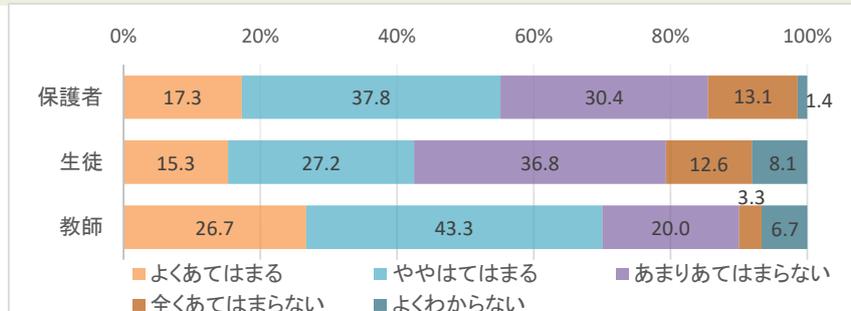
R7ではICTを活用した授業への肯定的評価が明確に上昇している。生徒の意欲面での評価が高く、タブレット活用が学習への主体的な参加を促していることが読み取れる。一方で、学習効果との関連をより意識した活用が今後のポイントとなる。

Q6 授業の基礎的な内容を理解し適切に評価している。



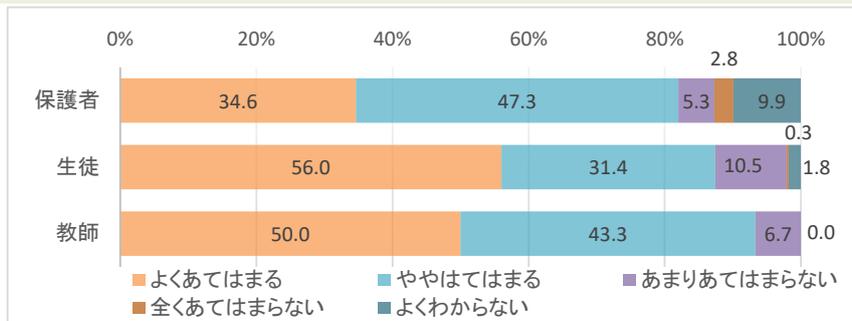
基礎的内容の理解や評価に関しては、R6・R7ともに高い水準を維持している。大きな変動は見られず、日々の授業における基礎・基本の重視が安定して行われていると評価できる。引き続き、個に応じた支援の充実を図る必要がある。

Q7 家庭学習の習慣が身についている。



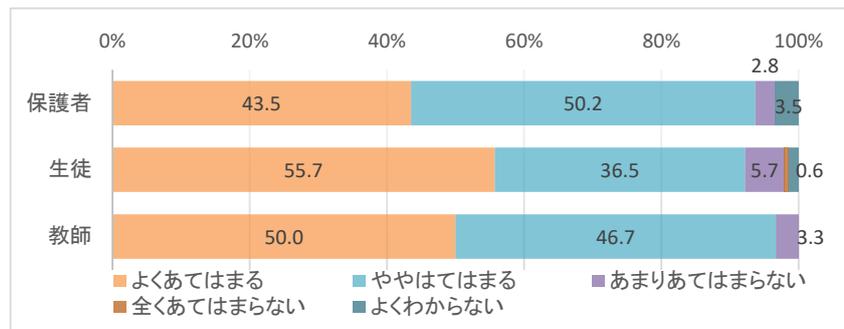
R7では家庭学習に関する肯定的回答がやや増加しているものの、評価は高いとは言えない。学校として子どもの学習意欲を喚起する取組を推進する必要がある。

Q8 生徒会や委員会、学級活動、学校行事に仲間と協力して取り組んでいる。



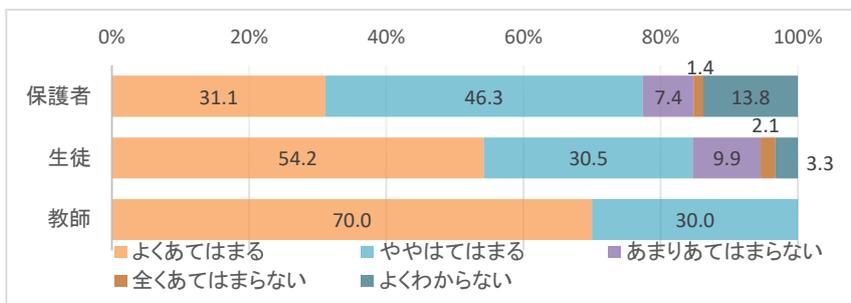
生徒会活動や学校行事等における協力的な取組について、R7では肯定的評価が高まっている。生徒会の取組や学級活動を通して、個性を尊重し合う態度が育まれていると考えられる。

Q9 善悪の判断や命の大切にする心が育まれている。



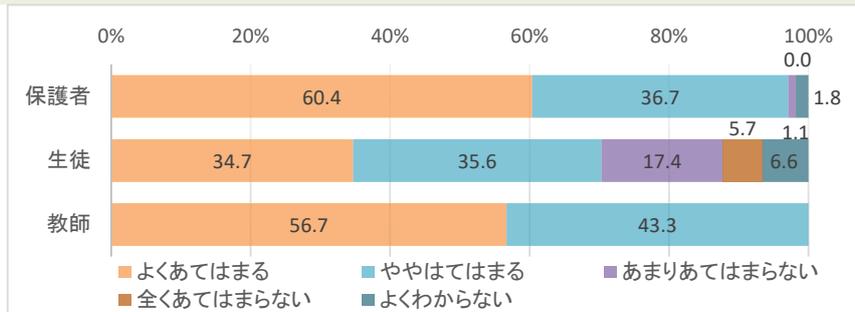
道徳的心情や規範意識に関する評価は、肯定的評価が9割以上を占めている。日常の指導や行事等を通して、価値観の育成が継続的に行われている成果といえる。

Q10 学校は生徒の悩みや気持ちを理解するように努めている。



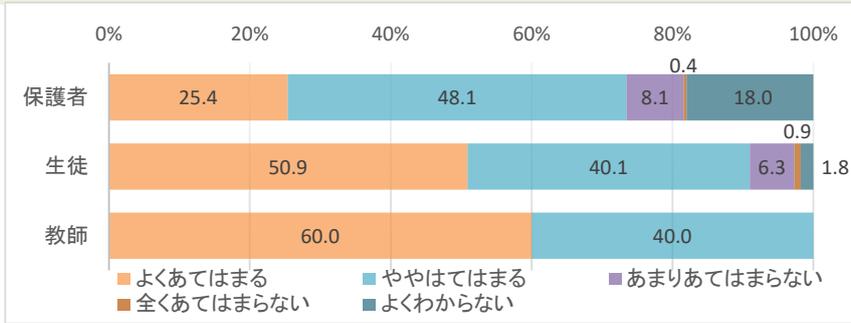
教職員が生徒の悩みや気持ちを理解しようと努めている点について、R7では肯定的評価が高まっている。生徒・保護者双方の評価が比較的安定しており、相談しやすい学校づくりが一定程度進んでいると考えられる。

Q11 自分（子供）には良いところやいろいろな可能性があると思う。 ※教師：良さを認める指導をしている。



R7では、生徒自身の「自分の良さや可能性」に対する肯定的評価が向上している。教職員の評価も高く、子どもの良さを引き出す授業づくりや、自己肯定感を高める「CanDoテスト」の取組などの成果と言える。

Q12 一人一人の個性を認め尊重している。



生徒、教職員ともに肯定的評価が高い水準となっている。中でも教職員A+Bの肯定的評価が高水準であり日常の指導や生徒対応において、個性理解・尊重を強く意識して実践していることが表れている。
 生徒は肯定的評価は比較的高いが、教職員よりはやや低いことから、教員の思いは一定程度伝わっているものの、生徒一人一人の個性をしっかりと把握して、きめ細かく対応していく必要がある。

学校評価のまとめ

今年度の学校評価では、授業の分かりやすさや、子どもたちが安心して過ごせる学校づくり、友だちと関わりながら学ぶ活動などについて、「良くなっている」と感じる回答が多く寄せられました。
 日々の学校生活の中で大切にしてきた取組が、子どもたちの実感につながってきているものと受け止めています。
 一方で、互いに学び合う力を育む場面や自力解決の力を育む場面のさらなる充実、家庭でも「もう一度調べてみよう」と思える余韻の残る授業づくり、また、保護者の皆さまと学校との感じ方の違いといった課題も明らかになりました。
 こうした結果を真摯に受け止め、保護者や地域の皆さまと共有しながら、子どもたちが安心して学び、成長できる学校づくりを、今後も進めてまいります。